

森の探検 梅花保育園(埼玉県本庄市)

「科学する心を育てる」をテーマに迫るイキイキワクワク体験ができるように、5歳児が例年楽しみにしているお泊り保育に着目し、事前の経験として五感を意識しながら「ダイナミックなどろんこ遊び」「ヨットづくり」「農園での野菜づくり」などの豊かな経験が重ねられるようにした。

お泊り保育での経験のひとつ『森の探検』では、「空気がおいしいね」「緑のにおいがする」「何の実だろう?」「何でこの枝は曲がっているの?」「虫がいないかな?」など不思議や発見がたくさん詰まっていることに気付いたり期待したりすることができるようにした。

緑の多い自然の中で、森のにおいを感じよう! 手作りのハンモック、ブランコ、はしごでダイナミックに遊ぼう!!

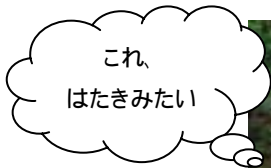
木や枝が生い茂っている森をみて、子どもたちは圧倒された様子でした。これからどんなことをするのか、楽しく遊ぶために注意してほしいことを担任が話をしてから森の中にみんなで進みました。(7月22日)

はしごに登ってみよう

手作りはしごに「さあ登ろう!」と登ってみたものの安定感がなく、少し怖い。でも、慣れてくると森全体が見えてくるはず…。『上から見下ろした森はどんなふうに見えるのかな?』登る前と、登った後の風景の違いに「すごーい!!」と感動するだろう。落ちて大丈夫なように葉っぱを集めてクッションを作る。どこに敷けばクッションの役割になるの? みんなの知恵と力を合わせよう。

はしごは、木の枝に紐をひっかけて2本の紐がたれるようにし、紐と紐の間に木材を通すという簡単なものですが、子どもたちは興味津々で周りに集まってきました。遊び道具を作ってもらう喜びは普段では感じたことのない気持ちだったでしょう。

保育士がはしごを作ったら子どもたちは落ち葉や枯れ枝をあつめて木の周りに敷きます。これで枯葉がクッションの役割をします。前後左右に揺れるはしごに子どもたちは苦戦しながらも、一段一段上りました。



<考察>

始めはただ、やみくもに木の周りに葉っぱを積んでいだけでしたが、保育士から「なんのためのクッションか」の話をしたところ、どこに積んだら役割を果たすのか子どもたち同士で意見をだし、「こっちよりもっとはしごの下に積んだほうがいいよ」などの声が聞こえ、協力してできました。



手作りのハンモック・ブランコ、ダイナミックに遊ぼう

【紐・網・木を使った遊び】

「ゆらゆらして気持ちいいね」「空を飛んでみたい」「なんだか、ねむくなっちゃうよ」いつもは1人で乗るブランコも、4人で乗れば楽しさも膨らむね。息を合わせて「せーの!」でブランコをこぎだそう! みんなで息を合わせる心の心地よさに気づいてほしい、一人一人が体で感じてほしい。

ハンモックとブランコ、はしごでそれぞれ自由に遊びました。ブランコはいっぺんに4人乗れる大きいもので座る所は角材です。4人でタイミングを合わせ「せーの」で足を離しこぎ始めました。

ハンモックは4本の木に縛り付けて作ったものです。

横になって空を見上げる子や端から端にコロコロ転がって遊ぶ子など、普段体験できない大きさに満足そうでした。

地面にそのまま横になっている子もいました。晴れていても木の枝や葉で日差しがさえぎられている森の中。葉の間から見える太陽の光はとてもキレイでした。



枝や草でトンネル作り

「なかなか土に木がささらないよ~」「土を少し掘ってからさしてみよう」「木に草を巻くと屋根になるよ」ただのトンネルじゃつまらない。そうだ! 飾りつけをしてみよう! 木や草、木の実を集めて自分達だけのトンネルを作ろう! 子ども達のひらめき・アイデアでトンネルはどんどん長くつながっていく。トンネルをくぐったときの土の冷たさや、匂いを感じてみよう。

湿っている土に枝の太いほうを力いっぱい差し込みます。枝を集めて土台をつくったら、葉っぱやつるをまきつけ看板を作ったり、電気にみたてたものを作ったりと思いつきに飾り付けをしました。

いつにない真剣な表情で飾り付けをしていました。枝に葉っぱをさす子やつるを丁寧にトンネルに巻きつける子、友達に手伝ってもらう子、それぞれのやり方で大きなトンネルが作りあがりました。

作ったトンネルを通ることにしました。とても低いトンネルもあるのでほふく前進のようにしないと通れないところもありましたが、服や手が汚れることなど全く気にせず、前に進んでいきました。



かわいいの
作るっと



先生、看板が
できた



考察

保育士のまねをして1人の男の子がトンネルを作るための枝を土にさそうとしましたが、力が足りず出来ませんでした。そこで、太い木を持ってきて、枝を上から叩いていました。木をかなづち代わりに使おうとしたのだと思いました。自然の中で、無いものはないなりに代用したり、違う使い方を考えたり、自分で必死に考えたようです。

トトロ探し 『トトロはどんなところにいるのかな...トトロに会えるかな?』

【森の中を一周する】

森の中には、普段見ることの出来ない木や葉っぱがたくさんある。木や草をかきわけて、子どもたちが自ら手に取り、触ることで自然を感じてほしい。少し危険な遊びもドキドキ・ワクワクをたくさん経験してほしい!



担任を先頭に、森の中を一周しました。生い茂っている森を歩きながら、「トンネルがあるよ」「 みたい」など自分が感じたことを友達に共有しようとする様子が見られました。



考察

大きい枝を後ろから来る子のために持ち上げてどかしてくれたり、邪魔にならないようにと友達が通るまで枝を持って待っていてくれる子どももいて、ただ自分が前に進むためではなく後ろから来る子のためにどうしたらいいか考える様子が見られました。

森の探検を通じて

森の探検では普段の保育園生活で体験できないことばかりでした。

おとなしい子が嬉しくて大きな声で笑ったり、真剣な表情を見せてくれたりとそれぞれの子どもの豊かな表情を見ることができました。

2時間30分の活動の中で協調性や相手を思いやる気持ち、相手のことを考える気持ちが芽生えたように感じました。そして「おもちゃ」が無くても自然の中で楽しい事はたくさんできるということを知ってもらう機会になりました。

これから同じような体験をする機会は少ないと思います。森の探検で感じたことを、忘れないでいてほしいと思います。

みどころ

豊かな自然体験を期待できる「森の探検」。自然の中に入った子どもたちがどのようなことを楽しむのか、どのような刺激があると幼児の感性や好奇心が発揮されるのか、そして、進んで自然にかかわる体験ができるのか、と子どもたちの実態を捉えて活動を丁寧に計画し進められていることで、保育者の願いに迫る充実した展開になりました。指導の工夫により、子どものことばや動きが豊かに表れ、自ら考えて行動する生き生きとした姿が引き出されました。また、その中で一緒に活動する友達を意識したり協力したりする姿に着目して考察することもでき、「科学する心」の育ちにつながる経験が見えてきます。